

銀行

1. 評価対象企業（14 社）

めぶきフィナンシャルグループ、ゆうちょ銀行、コンコルディア・フィナンシャルグループ、新生銀行、あおぞら銀行、三菱UFJフィナンシャル・グループ、りそなホールディングス、三井住友トラスト・ホールディングス、三井住友フィナンシャルグループ、千葉銀行、ふくおかフィナンシャルグループ、静岡銀行、セブン銀行、みずほフィナンシャルグループ
(証券コード協議会銘柄コード順)

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	20
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	32
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	18
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	3	18
計		20	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 26 名（所属先 25 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、フェア・ディスクロージャーおよび自主的な情報開示において内容変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 75.6 点（昨年度 76.2 点）、総合評価点の標準偏差は、6.2 点（昨年度 6.3 点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 75%（昨年度 76%）、説明会等が 77%（昨年度 80%）、フェア・ディスクロージャーが 83%（昨年度 85%）、コーポレート・ガバナンス関連が 75%（昨年度 74%）、自主的な情報開示が 69%（昨年度 66%）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全 20 項目中、次の 7 項目が平均得点率で 80%以上となった。なお、7 項目の内訳は、説明会等が 4 項目（(c) (d) (e) (g)）、フェア・ディスクロージャーが 3 項目（(a) (b) (f)）であった。
 - (a) 「経営陣および IR 部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか」（平均得点率 98%〔昨年度 95%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：100%7 社・90%台 7 社）
 - (b) 「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか」（平均得点率 92%〔昨年度 91%〕）（得点率：90%台 12 社・80%台 2 社）

- (c) 「第1四半期、第3四半期の開示資料の内容は十分ですか」(平均得点率 83% [昨年度 77%]) (得点率: 90%台 2社・80%台 9社・70%台 3社)
- (d) 「決算発表および説明会は迅速に行われていますか」(平均得点率 83% [昨年度 89%]) (得点率: 90%台 3社・80%台 10社・70%台 1社)
- (e) 「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示(規制変更の影響など自主的開示を含む)が十分になされていますか」(平均得点率 82% [昨年度 84%]) (得点率: 90%台 4社・80%台 4社・70%台 5社・60%台 1社)
- (f) 「英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか」(平均得点率 82% [昨年度 87%]) (得点率: 90%台 7社・80%台 2社・70%台 3社・60%台 2社)
- (g) 「決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか」(平均得点率 81% [昨年度同率]) (得点率: 80%台 10社・70%台 4社)
- ④ 非財務情報関連の項目(自主的情報開示の中の1項目)は、次のとおりとなった。
- ・ 「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて非財務情報(ESG 情報等)を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていきますか」(平均得点率 70%) (得点率: 50%台 1社・60%台 7社・70%台 3社・80%台 3社)

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 三井住友フィナンシャルグループ (ディスクロージャー優良企業(3回連続4回目)、

総合評価点 85.4 点 [昨年度比 -0.7 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等(得点率(以下省略) 85%)、説明会等(84%)、コーポレート・ガバナンス関連(85%)が第1位、自主的情報開示が同得点第1位(87%)、フェア・ディスクロージャーが第2位(89%)となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となり、「IR の基本スタンス」も同得点第1位となった。これらに関連して、経営トップを含めて経営陣の IR 姿勢が積極的であることを評価する声が寄せられ、投資家の関心事項を理解してコミュニケーションや説明を行っているとの声もあった。なお、成長戦略の説明が十分に伝わっていないとの声もあった。「IR 部門の機能・姿勢」については、同得点第5位となった。これに関連して、投資家の声に耳を傾けつつ適切に情報を開示していると評価する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていること」が最も高い評価となり、「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示(規制変更の影響など自主的開示を含む)が十分になされていること」も同得点第1位となった。これに関連して、説明会の配布資料の充実を評価する声が寄せられた。一方で、「第1四半期、第3四半期の開示資料の内容が十分であること」は、同得点第9位となり、その充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「リモートツールによる情報提供」が最も高い評価となった。これに関連して、ウェブを中心としたコンパクトな説明会開催を評価する声が寄せられた。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(2項目)および「英文による情報提供」の各項目も、90%以上の得点率となった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「コーポレートガバナンス・コード」および「目標とする経営指標等」が共に最も高い評価となった。また、「資本政策、株主還元策の開示」も高い評価となった。なお、他社と同様に、政策保有株式について合理的で定量的な説明を望む声があった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること」が高い評価となり、「その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていること」が最も高い評価となった。これに関連して、IR Day、法人デジタル戦略説明会、ESG の取組みに関する説明会を評価する声が寄せられた。また、「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて非財務情報(ESG 情報等)を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」も、同得点第1位となった。内容が充実していたものとして、統合報告書やウェブサイトにおける ESG 関連情報の開示が挙げられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 三菱UFJフィナンシャル・グループ（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 84.5 点〔昨年度比+0.8 点〕、昨年度第2位〔一昨年度第2位〕）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第1位（90%）、自主的情報開示が同得点第1位（87%）、経営陣の IR 姿勢等（85%）、コーポレート・ガバナンス関連（83%）が第2位、説明会等が第3位（82%）となった。昨年度に比べ、説明会等およびフェア・ディスクロージャーを除く3分野において得点率が改善し、総合評価点は0.8点上昇した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR の基本スタンス」が同得点第1位となり、「経営陣の IR 姿勢」も高い評価となった。これらに関連して、経営陣、IR 部門共に投資家からの意見を前向きに聞く姿勢があること、経営トップをはじめ経営陣の IR 姿勢が積極的であり、社外を含めた取締役との意見交換の機会が多いことを評価する声が寄せられた。また、「IR 部門の機能・姿勢」も評価された。これに関連して、投資家の声を的確に理解し経営トップに伝えている、個別取材・電話取材への対応が丁寧で正確であるとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）が十分に説明されていること」および「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的开示を含む）が十分になされていること」が共に同得点第1位となった。また、「事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていること」および「決算補足説明資料が、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」も評価された。なお、海外子会社や関係会社も含め、地域別の業績動向に関するわかりやすいデータの開示を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（2項目）および「英文による情報提供」が同得点第1位となり、「リモートツールによる情報提供」も同得点第2位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「コーポレートガバナンス・コード」、「資本政策、株主還元策の開示」および「目標とする経営指標等」が評価された。これらに関連して、社外取締役と投資家との対話の機会を設けたことを評価する声が寄せられた。なお、他社と同様に、政策保有株式について合理的で定量的な説明を望む声があった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること」が最も高い評価となり、「その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていること」も高い評価となった。これに関連して、Investors Day、サステナビリティ経営説明会を評価する声が寄せられた。また、「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて非財務情報（ESG 情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」は、同得点第1位となった。内容が充実していたものとして、統合報告書やサステナビリティレポートが挙げられた。

同社は、3回連続して第2位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

第3位 みずほフィナンシャルグループ（総合評価点 81.0 点〔昨年度比-1.4 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、コーポレート・ガバナンス関連（79%）、自主的情報開示（84%）が第3位、説明会等が同得点第4位（80%）、フェア・ディスクロージャーが第5位（87%）、経営陣の IR 姿勢等が第6位（78%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が評価され、「IR 部門の機能・姿勢」は第4位となった。これらに関連して、経営トップをはじめ経営陣の IR 姿勢が積極的であること、経営トップと定期的に対話をする機会が設けられていることを評価する声が寄せられた。また、IR 部門が投資家の意向を理解し、そうした情報を経営陣に伝えているとの声もあった。一方、「会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られること」は、平均得点率を大きく下回った。これに関連して、システム障害に際し、十分な説明がなされているとは言えないとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示）」が評価された。

示を含む)が十分になされていること」が、90%以上の得点率となり、「説明会資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」および「決算発表」の各項目も、いずれも80%以上の得点率となった。「事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていること」(同得点第6位)は、平均得点率と同程度にとどまった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」が評価された。これに関連して、ウェブや電話での説明会について、ウェブサイトから参加できることを評価する声があった。なお、「投資家にとって重要と判断される事項の開示が、遅滞なく十分に行われていること」については、昨年度に比べ、順位、得点率共に大きく下げた。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」が評価された。また、「中・長期経営計画(ROEなど目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること」は、昨年度に比べ、順位、得点率が共に上がった。一方、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」は、昨年度に比べ、順位、得点率共に下げた。なお、社外取締役と投資家との対話の機会を設けたことを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること」および「その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていること」が共に高い評価となった。これらに関連して、IR Day、IR Select を評価する声が寄せられた。また、「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて非財務情報(ESG情報等)を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」も評価された。内容が充実していたものとして、統合報告書、TCFDレポートが挙げられた。

以 上

2021年度 ディスクロージャー評価比較総括表（銀行）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目3 (配点 20点)	評価項目7 (配点 32点)	評価項目4 (配点 12点)	評価項目3 (配点 18点)	評価項目3 (配点 18点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	8316 三井住友フィナンシャルグループ	85.4	17.0	1	26.8	1	15.3	1
2	8306 三菱UFJフィナンシャル・グループ	84.5	16.9	2	26.3	3	14.9	2
3	8411 みずほフィナンシャルグループ	81.0	15.6	6	25.5	4	14.3	3
4	8309 三井住友トラスト・ホールディングス	80.3	15.8	4	26.6	2	14.2	4
5	8331 千葉銀行	78.6	15.9	3	25.5	4	13.8	6
6	8308 りそなホールディングス	78.4	15.8	4	25.2	7	13.6	7
7	8303 新生銀行	76.4	14.0	10	25.5	4	13.2	9
8	8355 静岡銀行	74.5	15.5	7	24.4	9	14.1	5
9	8410 セブン銀行	73.5	15.2	8	25.2	7	12.8	11
10	8354 ふくおかフィナンシャルグループ	72.3	13.5	12	23.8	10	13.1	10
11	8304 あおぞら銀行	71.5	14.3	9	23.1	12	13.3	8
12	7186 コンコルディア・フィナンシャルグループ	69.3	13.9	11	23.0	13	12.8	11
13	7167 めぶきフィナンシャルグループ	68.9	13.3	13	23.6	11	12.7	13
14	7182 ゆうちょ銀行	63.9	12.9	14	21.3	14	11.0	14
	評価対象企業評価平均点	75.61	14.97		24.70		13.51	
					9.97		12.46	

2021年度評価項目および配点(銀行)

【評価期間：2020年7月～2021年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (20点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップが決算説明会、統合報告書等において経営方針等を十分に説明していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能・姿勢	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応じていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	6
(3)IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (32点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示(連・単の両決算)	
①事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていますか。	7
②事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	7
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	5
④自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的な開示を含む）が十分になされていますか。	4
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
①決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	4
②第1四半期、第3四半期の開示資料の内容は十分ですか。	3
(3)決算発表	
・ 決算発表および説明会は迅速に行われていますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー (12点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
①経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。	2
②投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく十分に行われていますか。	2
(2)リモートツールによる情報提供	
・ ウェブサイト等を活用した、有用かつ速やかな情報提供（説明会、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていますか。	6
(3)英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (18点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	6
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	6
(3)目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画（ROEなど目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (18点)	配点
①決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について 〔過去1年間を目安に評価〕【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	
A 積極的に実施していますか。	5
B その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。	3
②統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて非財務情報（ESG情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか。【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	10

銀行専門部会委員

部 会 長	高 井 晃	大和証券
部会長代理	鮫 島 豊喜	SBI 証券
	高 宮 健	野村證券
	西 原 里江	JP モルガン証券
	西 村 英一郎	野村アセットマネジメント
	花 岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
	簀 谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

評価実施アナリスト（26名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
今井 雅	アセットマネジメント One	丹羽 孝一	シティグループ証券
岩下 暢道	三井住友 DS アセットマネジメント	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
黒田 真琴	クレディ・スイス証券	伴 英康	ジェフリーズ証券会社 東京支店
佐藤 雅彦	SMBC 日興証券	柊 宏二	QUICK
佐野 滉介	第一生命保険	藤原 重良	S O M P O アセットマネジメント
鮫 島 豊喜	SBI 証券	古舘 克明	朝日ライフ アセットマネジメント
柴崎 正人	三井住友トラスト・アセットマネジメント	摩嶋 竜生	東海東京調査センター
高井 晃	大和証券	松野 真央樹	みずほ証券
高宮 健	野村証券	峯嶋 利隆	ニッセイ アセット マネジメント
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント	森川 祐樹	富国生命投資顧問
永本 成克	MU 投資顧問	矢野 貴裕	大和証券
西原 里江	JP モルガン証券	簀谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。